

国際学科 卒業研究 卒論評価ルーブリック

学籍番号 NA

氏名

関係するディプロマ・ポリシー (DP)	評価基準	S (4点)	A (3点)	B (2点)	C (1点)	F (0点)	得点
		高い水準で達成できている	達成できている	おおむね達成できている	達成度が低い	達成できていない	
① 社会で必要とされる知識・技能 世界各国・地域の人々の生活や社会制度に関する幅広い知識と、英語・中国語をはじめとする語学力と共に、傾聴・受信力、クリティカル思考力、コミュニケーション力を身に付け、環境の変化に柔軟に適応しながら、自らの意見を述べ、行動することができる。	書式	所定の書式に則って論述しており、誤字・脱字等がない。章立てや段落、注、引用が適切である。	所定の書式に則って論述しており、誤字・脱字等が少ない。章立てや段落、注、引用がほぼ適切である。	所定の書式を逸脱しており、誤字・脱字等が散見される。章立てや段落、注、引用に適切でない部分も見られる。	所定の書式を逸脱しており、誤字・脱字等が散見される。章立てや段落、注、引用が適切ではない。	所定の書式を全く守っておらず、誤字・脱字等が著しく多い。章立てや段落、注、引用が適切ではない。	/4
	内容	学術的な問題提起をし、先行研究の考察、検討を適切に行っている。テーマに沿った資料収集あるいは調査を実施し、十分に分析した上で、根拠に基づいた説得力ある結論を導いている。必要な範囲でテーマに国際性があり、外国語も駆使している。	学術的な問題提起をし、先行研究の考察、検討を適切に行っている。テーマに沿った資料収集あるいは調査を実施し、分析した上で、妥当な結論を導いている。	学術的な問題提起をし、先行研究の考察、検討を最低限行っている。テーマに沿った資料収集あるいは調査を実施し、分析をした上で結論を導いている。	学術的な問題意識が不明瞭で、先行研究の考察、検討が十分でない。テーマに沿った資料収集あるいは調査、分析が不十分で、結論に妥当性を欠く。	学術的な問題意識を欠き、先行研究の考察、検討を行わずに引用している。テーマに沿った資料収集あるいは調査、分析もなされておらず、結論に妥当性を欠く。	/4
② 知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力 文化や制度の多様性についての理解と、教員・学生との意見交換や討論を通じて獲得したコミュニケーション力、プレゼンテーション力、課題設定力、企画・計画力、クリティカル思考力により、自らが直面する諸問題を正確に分析し、適切に対処することができる。	学術的価値	先行研究にはなかった独自の視点、新しい知見が付け加えられ、興味深い研究結果が提示されている。	先行研究にはなかった独自の視点、新しい知見が付け加えられている。	先行研究を参考にした上で、新しい知見を付け加える試みがなされている。	先行研究のまとめや追認に留まっている。	先行研究の剽窃など不正行為が行われている。	/4
③ 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度 異なる言語や文化的背景を持つ他者と自己との比較により得た自己理解力、コミュニケーション力、ディスカッション力、傾聴・受信力を活用し、多様な価値観を尊重しながら自らの主体性を損なうことなく、新しい物事や方法論を創出することができる。	主体性	教員と十分な議論を重ね、またゼミ内での発表なども繰り返し、主体的に卒論研究に取り組んだ。	教員の指導を受けて、意欲的に卒業研究に取り組んでいた。	教員の指導を受けて、最低限必要なことは自ら取り組んでいた。	卒業研究に取り組む姿勢にあまり意欲が感じられなかった。	卒業研究に取り組む姿勢に問題があった。	/4

(S: 13-16点, A: 9-12点, B: 5-8点, C: 4点, F: 0-3点) 総合判定